



福井大学構内での試験施工

福井県建設技術公社は9月26日、福井市のAOSAで「ふくい建設技術フォーラム」を開催した。同公社が支援した産学官共同研究の成果を発表したもので、福井宇部生コンクリートと福井大学、福井県の「フライアッシュ混合型高炉セメントコンクリート」など6件の研究概要が紹介された。

「フライアッシュ混合 ート」は高炉セメントを度ひび割れ・乾燥収縮ひび割れ抑制効果

が、ひび割れ抑制効果が多いこと、配合・製造および施工指針(案)を産学官共同研究報告書として発行している。今年3月には石川裕夏福井宇部生コンクリート常務が同コンクリートの概要を説明し、高炉セメントを用いたコンクリートのひび割れを抑制するため、着目

## 高炉とフライでひび割れ抑制

### 福井宇部が研究発表

したのが明石海峽大橋工事などに適用された3成分系セメント。このセメントは特殊セメントであり、一般の工事に使用するのとは異なる。そのため、生コン工場が高炉

体的には①空気運行情、空気量保持性能が低下し、その結果、凍結融解抵抗性が低下する②硬化後のコンクリート表面に黒ずみ、色むらが発生する③室内試験や福井大学構

セメントコンクリートにフライアッシュを混和材として混合できないかと考えた。この問題を解決するため、有機リン酸エチル

### ふくい建設技術フォーラム

や早いものの、「自然環境下で材齢50年では17.1%、材齢100年で24.2%程度であり、鉄筋

凍結融解抵抗性、塩害抵抗性、アルカリ骨材反応抑制効果にも高炉セメントコンクリートと同等かそれ以上である。これを確かめることを確認。暑中期の製造・運搬でも、適切な配合設計、品質管理を行うこと

業放流ポンプ棟増設(土木)工事での適用を予定している。

